

東北地方 1か月予報

(7月21日から8月20日までの天候見通し)

平成19年7月20日
仙台管区気象台発表

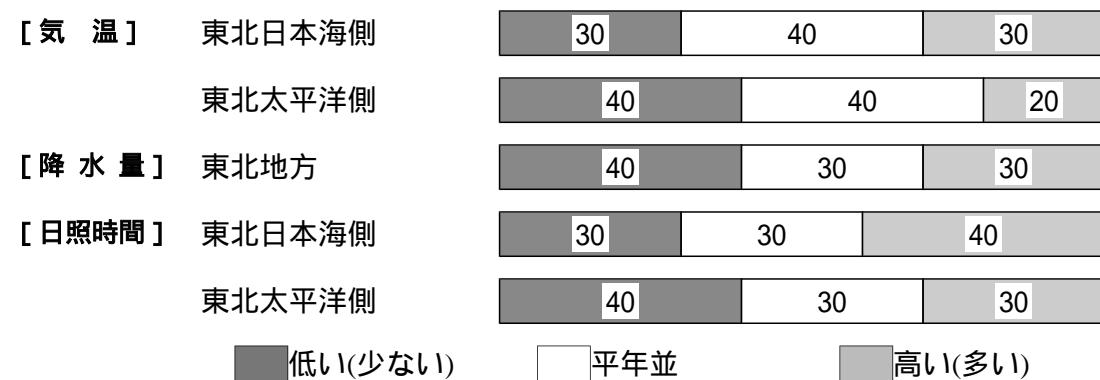
<特に注意を要する事項>

1週目のはじめは、東北太平洋側を中心に日照時間が少なく、気温が低い状態が続きますので、農作物の管理に注意して下さい。

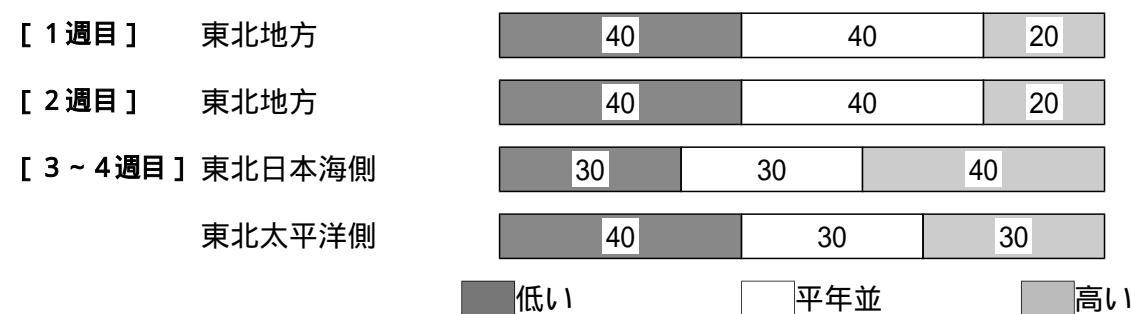
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。
向こう1か月の気温は、東北太平洋側で平年並または低い確率がともに40%です。
週別の気温は、1週目は東北地方で平年並または低い確率がともに40%、2週目は平年並または低い確率がともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 7月21日(土) ~ 8月20日(月)
1週目 : 7月21日(土) ~ 7月27日(金)
2週目 : 7月28日(土) ~ 8月3日(金)
3~4週目 : 8月4日(土) ~ 8月17日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月27日

3か月予報：7月25日（水）14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	23.2	114.4	194.5	22.4	23.5	23.5
深浦	23.3	143.6	192.2	22.7	23.5	23.5
むつ	21.7	114.0	161.3	20.9	22.0	22.0
八戸	22.4	114.4	182.7	21.6	22.8	22.7
秋田	24.7	157.6	201.9	24.1	24.9	24.9
盛岡	23.5	156.5	165.5	23.0	23.8	23.6
大船渡	23.0	150.3	169.8	22.2	23.2	23.3
宮古	22.2	138.1	172.3	21.3	22.4	22.5
仙台	24.1	144.2	158.0	23.3	24.4	24.4
石巻	23.4	105.7	179.3	22.6	23.5	23.7
山形	24.9	131.6	189.2	24.5	25.4	25.0
新庄	24.1	154.7	186.4	23.6	24.4	24.3
酒田	25.1	151.5	219.1	24.5	25.4	25.3
福島	25.4	129.4	163.9	24.8	25.8	25.5
若松	25.0	130.1	205.6	24.6	25.4	25.1
白河	23.5	185.1	159.0	23.0	23.8	23.6
小名浜	23.6	109.5	195.1	22.8	23.5	24.0

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ~ +0.7	74 ~ 120	90 ~ 110
東北日本海側	-0.6 ~ +0.5	76 ~ 115	91 ~ 112
東北太平洋側	-0.4 ~ +0.7	72 ~ 123	90 ~ 112

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +1.1	-0.6 ~ +1.2	-0.5 ~ +0.8
東北日本海側	-0.6 ~ +1.0	-0.7 ~ +1.1	-0.6 ~ +0.8
東北太平洋側	-0.6 ~ +1.3	-0.5 ~ +1.3	-0.5 ~ +0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成19年7月20日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月21日~8月20日):

東北日本海側は、高気圧におおわれ、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。東北太平洋側は湿った東風の影響で平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は、東北太平洋側では平年並または低い確率がともに40%、東北日本海側では各階級の確率の偏りは小さい。

なお、期間のはじめは東北太平洋側を中心に日照時間が少なく、気温が低いので、農作物の管理に注意してください。

1週目(7月21日~7月27日):

向こう一週間、気圧の谷や前線の影響で曇りの日が多く、雨の降る日もありますが、期間の中頃は晴れる日もあるでしょう。

平均気温は平年並または低い確率がともに40%です。

2週目(7月28日~8月3日):

東北地方は、高気圧におおわれ、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並または低い確率がともに40%です。

3~4週目(8月4日~8月17日):

東北日本海側は、高気圧におおわれ、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。東北太平洋側は湿った東風の影響で平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。

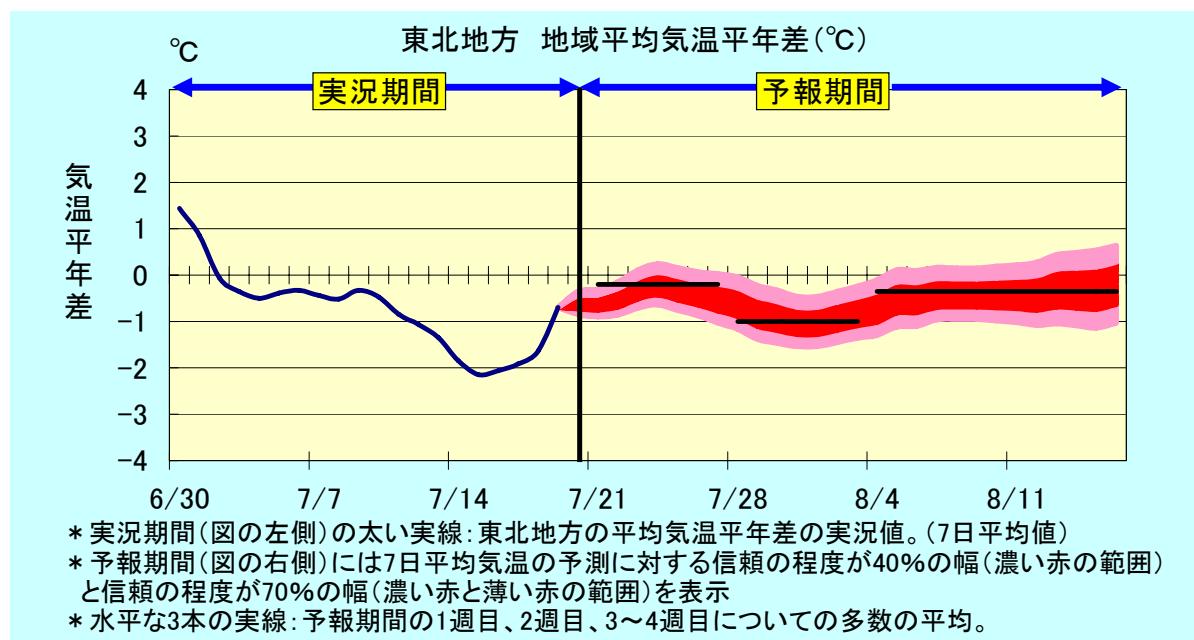
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	16.5日	4.1日	4.0日	8.4日
東北太平洋側	14.7日	3.5日	3.7日	7.5日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目と3~4週目はおおむね平年並、2週目は平年を下回る予想となっている。

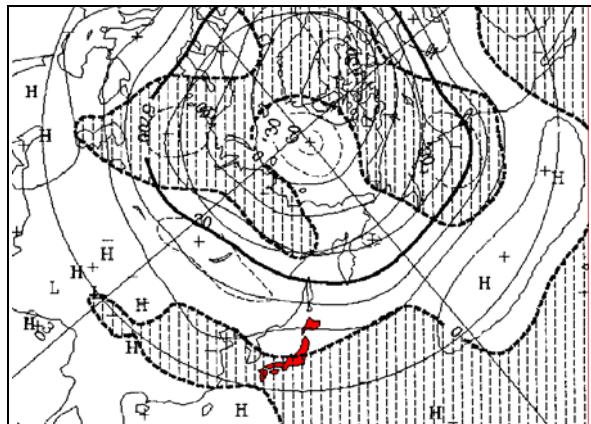


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均：日本の南海上は東西に負偏差が広がるが、北日本にかかる等高度線は北に盛り上がり、北日本は正偏差。北日本は高気圧におおわれやすいが、東北太平洋側では湿った東風の影響をうけ平年に比べて晴れの日が少ない見込み。

1週目：太平洋高気圧が北への張り出す。東北地方は梅雨前線の影響を受ける時期がある見込み。

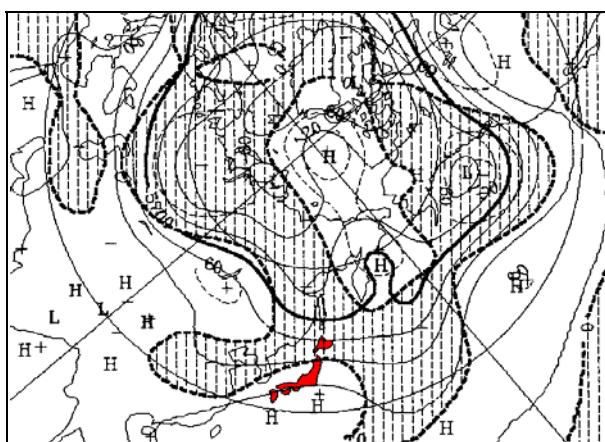
2週目：太平洋高気圧は弱まり、本州以南は寒気に伴う負偏差域にはいる。日本海では等高度線が北に盛り上がり、北日本は中緯度の高気圧におおわれる。このため気温は低いものの東北日本海側を中心に晴れの日が多い見込み。



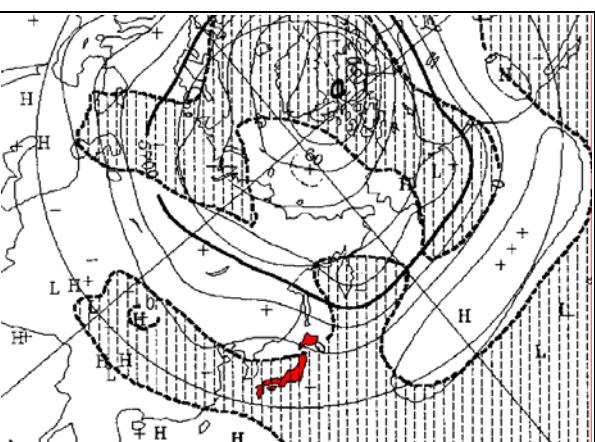
1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ)

ただし平年差の間隔は 30m 毎)



1週目平均 500 hPa 予想天気図



2週目平均 500 hPa 予想天気図

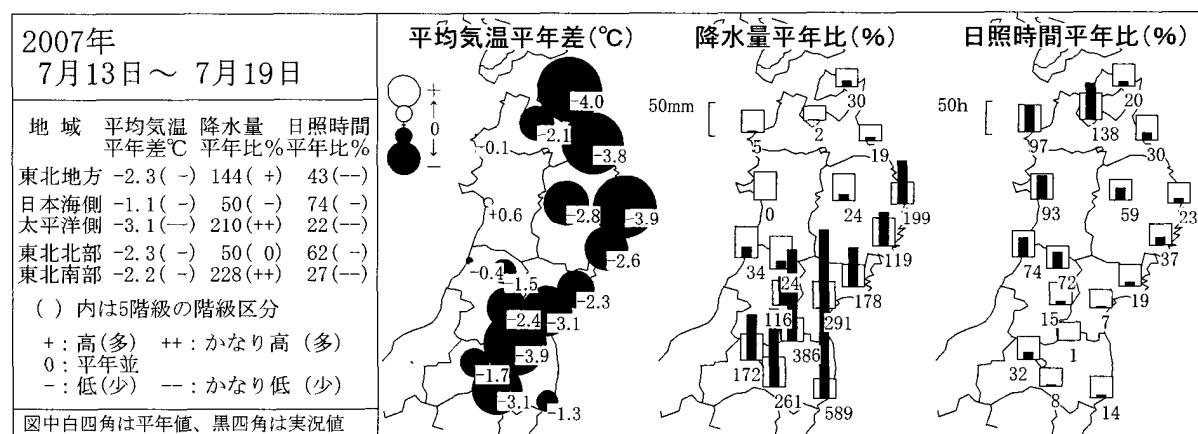
実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (7月13日～7月19日) の天候の経過

この期間、14日に台風第4号が九州に上陸し、16日にかけて本州の南岸沿いを通過した。このため、東北地方は太平洋側の南部を中心に大雨となり、土砂災害が多発した。17日以降は梅雨前線やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響で曇りや雨の日が多く、東北太平洋側を中心に気温の低い日が続いた。

平均気温は東北日本海側で低く、東北太平洋側でかなり低い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）